

点滴

0～最低限

移動

告知

○しない 2人

○説明はする(本人)

○Drに委ねる

検査、治療

○負担にならない
程度の治療

○リスクによって
検査する

意志決定

本人の意思を尊重した
が出来なければ家族に
意志決定して頂くが、
最終意志決定はキー
パーソンの長男お嫁で
はなく息子さんにして
頂きたい

〈知りたい情報〉

- ①介護度
- ②看取りが施設で
できるのか
- ③内服薬の内容
- ④家族との不仲の程度
- ⑤主治医との関係性
- ⑥病状の進行度(余命)
- ⑦食思の有無
- ⑧えん下状態
- ⑨入居時の本人の希望・
意思確認

本人の人物像を確認し告知を検討

- 理解力を確認
- 本人に終末期の考え方を聞き、家族へ伝える(相談)
- 施設スタッフが主治医、家族の橋渡しにならなくてはいけないのではないかと
- ★意思の確認が重要(出来るうちは)
- ★家族との連絡を密にしていく
- 主治医から本人への説明はどうなっているのか
- 検査などがあれば本人の不安が高まるのである程度本人へ伝えていく事は大切
- ◎本人の性格がかかわってくる問題ではないか ⇒治療の希望があるかもしれない

(ケア) について

- 本人へ意思確認をして行う ⇒入院するかしないかは告知次第で決定するのか?
- 本人の意思疎通が出来なくなった時は家族に伝えケアを考えていく必要がある
- 痛みのコントロールは主治医の決定による。施設によっては麻薬管理が
できない所があるのではないかと
- 急変時は早めの確認が必要

必要なケア

- ・ ケアサービスの導入 (訪看、往診など)
- ・ 痛みのコントロール 症状
- ・ 本人の要望を聞く
- ・ 家族のケア
- ・ 食べる事の支援

意志決定はどうする?

- ・ 判断出来なければ 家族の意向

検査、治療

- ・ 最低限の検査 治療はまず本人の意志を

本人への告知

すべき

(5人/8人)

- ・ その方の最期を支援 するのに本人が 知っている方が やり易い
- ・ 「食べれない」「痛い」 その理由はたとえ認知症 でも知りたいのでは?
 - ・ 本人が結局、中心だから (本人第一主義)

「本人がどうし
たいか不明
なので」

わからない

(1人/8人)

すべきでない

(2人/8人)

- ・ 参加者の経験談
今さら聞いても 「知らない方が良
かった」ということ
多々あり
- ・ 家族と本人との
これまでの関係が
崩れる可能性あり
- ・ キーパーソンへの配慮
(キーパーソンの尊重)

急変の際の対応

何に起因? (がん?他のイベント?)
事前にまず本人、その後家族と確認

家族的

- まず家族に来てもらう、コンタクトをとる。(なるべく早く)
- 家族の病識が乏しい
医療側から説明

医学的

- 告知は本人の意志を尊重してすべきである
- 早めに告知はした方が良いが本人が「どうしたいか」を探る

どうするか

支援的

- 周りが本人を導く

本人的

- 本人の治療に対するやる気を引き出す。(どう納得させるか)
- 本人の意志の尊重

情報を共有して支援方針を統一する。

- 本人の意思確認（告知までするのか）
- キーパーソンの方に立ち合ってもらい
今後の治療方針を決めていかないと
方向性が決まらない

↳ 決めれば選択肢が増える

- 痛みを取る事が大切。痛みがなければ
好きな事（習字）や食事ができる。

- 延命治療はどうするのか？

キーパーソン(息子さんにも)
の方にきちんと説明し
記録を取る事も大切。

○ 点滴について

苦痛の軽減

脱水時

中心静脈栄養までするか？

○ 移動について

体調に応じてスタッフの方をお願い

○ 告知・検査・治療・急変時

元気な時(今回は入居時など)に本人に
意向を聞いておく。

○ 疼痛について

出来るだけ痛みは取ってあげる

※麻薬などの使用

○ 意志決定について

薬などで判断力が低下した際は

家族に決定してもらう

- 心窩部痛が強く起き上がれない。経口摂取できず嘔気もある

└─▶ 点滴などを行う

- 移動に関して ─▶ 生活上の移動は本人の意向に合わせて状態 (疼痛管理、麻薬投与)

- 告知や今後の検査・治療は？

└─▶ 治療拒否はないので、早目に家族との仲介、主治医やCMが入る

- 疼痛の管理は、麻薬の取り扱い

└─▶ 患者への告知がないため家族の治療方針を決める

- 誰がどうやって意志

決定を行いますか？

─▶ 家族への説明 (治療方針、延命治療)
本人への説明 (現在の病状の説明、告知ではない)

- 面談後 → 告知や今後の検査、治療、急変の対応を決定する

検討

質問

- ①入居した理由
- ②生活環境はどうだったのか
- ③入居時に告知延命に関する確約があったのか
- ④入居先での終末期の過ごし方の意思表示があったのか

告知に関して

- ①キーパーソンは告知に関して意思表示しているが、
延命に関しては触れていない
- ②本人には「ガン」という言葉は使わず、「できもの」などと別の言葉に置き換え、対症療法を行う上でも説明は必要となる。
そうする事で御家族とのトラブルをさけていく必要がある。

選択肢を与える（提案） 本人・家族に選んでもらう

本人への告知は必ずしも必要ではない（状況に応じて）
病名は告知しても余命はにごしても

告知に関してだけでなく、治療や時間が残されていないこと
に関して疎遠な家族(全て)に関わってもらえる機会をつくる。



病状説明

②

結果に応じてどのようにケアを行うか過ごしていくか
多職種で選択肢を提案（金銭面に関しても）



①

どうしていくか本人・家族に意思確認

